

学習評価に基づいた授業改善

～自ら学び、思考し、行動する姿を目指して～

千葉県立つくし特別支援学校

電話 047-385-1632

FAX 047-386-5646



研究のポイント

3観点の学習評価に基づいた授業改善を図り、目指す子どもの姿に近づけていくには、単元全体の構想から振り返りまでの、単元の授業づくりのPDCAサイクルを働かせていくようにした。そこで整理できた各教科の学習内容を次年度の年間計画に生かし、さらに教科間のつながりを見渡して、目指す子どもの姿に近づくよりよい教育課程を作っていくということを目的として授業実践に取り組んだ。

■学校の概要

<https://cms1.chiba-c.ed.jp/matsudotsukushi-sh/>

松戸市、鎌ヶ谷市、柏市の一部を学区とする、知的障害の児童生徒を対象とした特別支援学校である。全校で242名が在籍する県内でも比較的大規模な学校である。「児童生徒一人一人が持つ力を引き出し、主体的な学習活動を支え、自立に向けて『生きる力』を育む」を教育目標とし、学びの質を高めるとともに、主体的な学びを重視した取組を行うことを重点の一つとして掲げている。学習指導要領の改訂に合わせ平成30年度から日課表の一部を変更し、帯状の時間枠を見直して、時間で区切った各教科の時間枠を設けた。

■研究課題

評価の3観点に沿った学習評価と授業評価による授業改善、単元ごとの評価を年間指導計画の改善につなぐ実践研究を行う。

■研究の目的と方法

【目的】

- 学習評価の在り方について明らかにしながら、授業づくりのPDCAサイクルを働かせて、目指す子ども像に近づくよう授業改善を図る。
- 研究対象授業の学習内容を整理するとともに、教科間のつながりや年間指導計画を考える。

【方法】

- 学習指導案を評価の3観点に沿った目標設定、指導と評価の計画が明確になるよう作成し、授業参観シートを活用して協議を行う。
- 各教科の年間指導計画を基に単元配列表を作成して教科間のつながりを見渡したり、単元ごとの評価や単元配列表を次年度の学習計画に生かしたりする。

■研究概要

【実践について】

○単元の授業づくりのPDCAサイクルをより働かせ、授業改善していくため、

①～④を重点として、シートを用いて検討しながら授業実践を行った。

①単元構想（単元構想シート）

- ・つけたい力 ・学習内容の整理
- ・学習活動 ・単元の目標設定

②単元計画（単元計画シート）

- ・3観点に沿った単元の評価規準、評価基準の設定
- ・指導と評価の計画

③個別の目標と評価規準（学習指導案）

- ・一人一人の単元での目指す姿 ・個別の評価規準

④単元の振り返り（授業参観シート、単元の振り返りシート）

- ・一人一人の学習の様子と評価 ・授業についての評価

○年間指導計画を基に単元配列表を学年ごとに作成し、教科ごとの単元の横のつながりや、他教科の学習内容とのつながりを見渡す機会を持った。単元の授業づくりサイクルでの単元の評価、振り返りを、次年度の学習内容や年間指導計画につなげることに広げていった。

【成果】

○単元で「つけたい力」を明確にし、単元の評価（規準・基準）、一人一人の目標を丁寧に検討したことで、単元の授業づくりのPDCAサイクルが働き、目指す子どもの姿に近づくよう授業改善ができるようになった。

○力をつけるための「やってみよう」という学習活動が計画され、主体的・意欲的に学ぶ姿を多く引き出すことができた。

○次の単元や次年度の年間指導計画を考える際の参考になるような振り返りができるようになり、学習集団の実態に応じた「つけたい力」をつけるための単元の学習内容が整理できた。

○身に付けた力を他の場面で活用・発揮できるような教科間の連携や働きかけ、単元後の子どもの見取りができるようになってきた。

○「授業構想シート」「単元計画シート」「授業参観シート」「単元の振り返りシート」など授業改善していくための手順とツールが整った。

【課題】

○子ども達の思考する姿、主体的な学びの姿を教科ごとに蓄積して整理し、さらなる質の高い学びを目指していく。

○単元ごとの評価、整理した学習内容を次年度の年間指導計画作成に生かしていくようなサイクルをさらに働かせ、子ども達の実態に応じたよりよい教育課程づくりにつなげていく。

関連資料

- ・本校HP【研究だより】

【講評】

県立つくし特別支援学校の実践について

つくし特別支援学校の実践は、児童生徒の「つけたい力」を明確にし、そのためにどのような知識や技能を身に付け、どんな学習活動を通して知識や技能を確実なものにしていくのか、その姿を先生方がしっかりと考えながら単元を構想し、学習評価につなげています。ここでのポイントは、単元の目標設定と評価規準を丁寧に検討したことです。このことにより、授業づくりのPDCAサイクルが、有機的に働くようになったことが大きな成果と言えるでしょう。

3観点の導入は、学習指導要領の着実な実施には欠かせないことであり、観点別学習評価をまだ導入していない学校はもちろんのこと、既に3観点を取り入れている学校においても、大変参考になる取組であったと思います。今後は、授業改善のPDCAを教育課程の改善につなげていき、子供たちの学びをさらに深めていくことを期待しています。